

公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は、「子どもの食 応援ボックス」利用世帯のアンケート結果を発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大で、収入が半分以上減少した世帯が3割、収入がゼロになった世帯が1割以上に上り、低所得世帯の子どもたちが深刻な貧困状態に置かれていることが分かりました。

### 「食応援ボックス」アンケート

**収入半減 3割**  
**ゼロ 1割超す**

「子どもの食」事業は、18歳までの子どもを扶養する所得税非課税世帯などが対象。米、小麦などの食料品を送りました。アンケートは6月下旬から1週間の申請時に行ったもの。申請世帯の98%の3143世帯が回答しました。

申請理由として半数以上が「十分な量の食料を賄うお金がない」「長期休暇（夏休み）に入り給食がなくなるため食費が心配」と答えました。

コロナの影響で勤務時間・日数の減少、休業または失業（解雇、雇い止め）、倒産、廃業）となった世帯は6割に上りました。

6割以上の世帯が食費、衣料、衛生用品などの生活必需品や教育に関する支出に困難を抱えています。

子どもの生活に関する悩みとして「子どもにストレスがたまっている」(64%)、「経済的理由で子どもを塾や習い事に通わせることができない」(56%)と答えています。

スポーツやレジャー・イベントなどの子どもたちの経験・物品の欠如に加え、養育者に時間的・精神的な余裕がなくなり、子どもに接することが難しい状況も明らかになりました。

## 食費削り児童手当は光熱費に ■学校の必要経費を滞納 ■ボロボロ体操服で我慢させてる

### 寄せられた声

【30代女性、子ども1乳幼児、小学生】子どもたちがご飯を食べられるように自分は一日一食にしています。

【30代女性、子ども1小学生、中学生】児童手当や扶養手当は全て光熱費などに使い、食費も削っている。おいしいご飯を子どもに食べさせてあげられなくて辛い。

【40代女性、子ども1中学生、高校生】制服はおさがりをもうい、汚れても新しいものに替えるのも躊躇(ちゅうちゅう)する。

【40代女性、子ども1高校生】収入がないに等しいのに子どもの学校の必要経費は払わなければならぬ。自分の着る物や持病の通院代を削るしかない。それでも足らなくて学校の経費を滞納している。

【40代女性、子ども1小学生、中学生、高校生】子どもに小さくなってボロボロの体操服を我慢して着せられている。

【40代男性、子ども1中学生、高校生】お金のかからない部活に愛を注いだらしくて。

【40代女性、子ども1小学生、高校生】学校で全額返さなくてはならない英検や漢検の費用、部活着代も出してあげられない。誕生日もしてあげられなかった。私のせいでも、かわいそうな思いをさせてしまっている子どもたちに申し訳ない。

【30代女性、子ども1乳幼児、小学生】ひとり親で公園以外のレジャー施設に連れていく余裕がない。

【30代女性、子ども1小学生、中学生】私は我慢できても子どもには不自由な思いをこれ以上させたくない。小6の娘は友達たちと比較して我慢していることがたくさんある。もっと手厚くしてほしい。子どもにふたつな願いをさせてほしい。社会がもっと優しく。